

參事院ハ普通ノ故障申述若クハ外人ノ故障申述手續ニ從ヒ行政訴件ニ係ル舊州知事若クハ州中央行政會ノ判決ヲ取消スヲ得ルヤ此問題ヲ是認スル者ハ曰ク是等故障申述手續ハ性法ニ適ヘル者ナリ且ツ甚クハ簡易ニシテ費用モ亦少ナキカ故ニ參議院ニ咨詢決定ス可キ皇帝ニ對シテ控訴スルニ勝レリ蓋シ參事院判決ニ對シ普通ノ故障申述若クハ外人ノ故障申述ヲ行フヲ許セル所ノ道理ハ推シテ舊州知事及ヒ州中央行政會ノ判決ニ適施シテ可ナリ何トナレハ今ノ參事院ハ共和曆第八年雨月二十八日ノ法律第二條ニヨリ舊州知事若クハ州中央行政會ニ代リタル者ナレハナリ夫レ凡ソ官衙ノ權ハ彼此ノ職掌相同シキニ當リテヤ其組織ノ變更如何ニ係ハラヌ之レヲ甲ヨリ乙ニ移スヲ例トス且ツ共和曆第三年ノ國憲第九十三條第九十五條及ヒ第九十六條ニヨリ宰相ニ取消ノ權ヲ與ヘタルカ爲メニ州行政官ニ屬ス可

キ其闕席判決ヲ取消スノ權ヲ奪ヒタル者ニ非サルナリト是等至當ト思惟ス可キ道理アルニ係ハラヌ參事院ノ公判ハ之レニ反對スルノ說ヲ取レリ是レ蓋シ州行政官ノ判決ヲ取消シタル參事院判決ヲ無効トスル共和曆第十一年雨月八日ノ政府ノ布令ニ基ケル者ナリ該布令書中ニ云ヘルアリ曰ク參事院ハ州中央行政會ノ判決ヲ取消スヲ得ス之レヲ確認シ若クハ取消スノ權ハ特ニ政府ニ屬スト
右ニ掲ケタル共和曆第十一年ノ政府ノ布令書中ニハ州行政官ノ決定書ヲ以テ對理ノ者トスルヤ將タ闕席ノ者トスルヤヲ示サス且ツ該決定書ノ改正ヲ求ムルカ爲メニハ故障申述ヲナス可キヤ將タ控訴ヲ行フ可キヤヲ定メス獨リ參議院判決ニ於テ右ノ共和曆第十一年雨月八日ノ布令ヲ釋明セリ
共和曆第十三年暖月四日某件千八百六十年十一月
共和曆第十一年六月十一日某件千八百三十九年六月六日トロンシユ件
千八百三十九年六月四日ロタリエー件千八百五
十五年十一月二十二日ドラクル件判決ヲ看ヨ
蓋シ普通ノ行政及ヒ

行政訴訟ニ係ル職務ハ州知事ト其中央行政會トノ間ニ混在スルカ故
 ニ參事院ヲシテ純然タル普通行政務ト行政聽訟務トヲ判別セシムル
 ハ甚タ其當ヲ得サル可シ右ニ註記セル參議院判決ノ主意ヲ主張セン
 カ爲メ尙ホ共和曆第三年ノ國憲第百九十三條第百九十五條及ヒ第百
 九十六條ヲ引證スルヲ得以上三條ニハ州長ヨリ發出スル文書ヲ取消
 スノ特權ヲ以テ獨リ政府ニ與ヘタリ
 是レニ因リテ之レヲ見レハ舊州長ノ決定書ヲ釋明スルノ權ハ特ニ參
 議院ニ屬ス千八百四十年二月二十七
 日クハラ、件判決ヲ看ヨ何トナレハ此釋明權ナル者ハ所
 謂ル改正權ナル者ト甚タ相密着スル者ナレハナリ然レモ之レヲ推シ
 テ舊州長ニ於テスル國有財産販賣ノ件ニ適施ス可カラス故ニ此場合
 ニ於テハ共和曆第八年兩月二十八日ノ法律第四條末節ノ明文ニ依準シ
 他ノ行政訴件ト同シク其説明ノ權ヲ以テ參事院ニ屬ス本書第九百九
 十二項及ヒ第九

參事院若クハ該院中ノ僱員ニ對シ損害要償ノ訴ヘテ起スヲ許サス何
 トナレハ該訴件ニ係ル特別規則ハ元ト行政訴件ノ性質及ヒ程式ト並
 ヒ行ハル可カラサル者ナレハナリカバンツ
 五百八十五項ヲ看ヨ余ハカバンツ
 氏ノ說ニ就テ疑ヒナキ能ハス請フ其故ヲ辯セン夫レ此ニ云フ所ノ
 損害要償ノ訴訟ナル者ハ畢竟重緊ノ場合ニ於テ裁判官ニ對シテ起セ
 ル所ノ損害要償ノ訴ヘニ外ナラス余ハ何故ニ參事院議官ヲ保庇スル
アシシヨ、ソ、ド、ド、ム、ニ、サ、ン、テ、レ、
 司法裁判官ヨリモ厚クス可キヤヲ解セス又何ニヨリテ司法裁判官
 ハ其起セル損害ニ就テ責任ヲ生シ參事院議官ハ却テ然ラサル所以ヲ
 解セス故ニ參事院議官ト雖モ其起セル損害ノ責メニ任スト云ハサル
 可カラス唯、共和曆第八年ノ國憲第七十五條ニヨリ政府ノ許可アルニ
 非サレバ參事院議官ニ向テ損害ヲ要償スルノ訴ヲ起スヲ得サルノ特

權ヲ存ス可キカ如シ然レモ千八百五十一年ノ法案ハ右ノ出訴權ヲ人民ニ認メス夫レ實際上ニ於テ此出訴權ヲ使用スルヲ甚ク難カル可シ今假ニ此權ヲ使用ストセヨ之レヲ何レノ官衙ニ訴出セン歟司法裁判所ニ訴ヘントスレハ則チ行政司法兩權區別ノ大則チ破ル可シ更ニ之レヲ行政官衙ニ訴ヘン歟行政官衙ハ特ニ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外損害要償ノ訴ヘテ判決スルノ權ナシ然ラハ則チ假令ヒ疑フ可キ所アルモ姑クカバンツ一氏ノ說ニ從ハサル可カラサルナリ

敬慎ノ訴ヘナル者ハ非常ノ訴訟手續ニシテ參事院ニ於テ之レヲ行フヲ許サス何レノ法令モ未ダ嘗テ之レヲ許サ、ルハ勿論且ツ之レヲ許ス可カラサルノ理アリテ存ス即チ所謂ル敬慎ノ訴ナル者ハ元ト終審ノ裁判ニ向テ特ニ之レヲ行フ可シトスル是レナリ訴訟法第四百八十四條 夫レ參事院ハ終審ノ判決ヲ下スヲ得ル者ニ非ス故ニ其判決ニ向テ敬慎ノ訴ヘ

テ起スヲ得サルハ素ヨリ論ヲ待タス千八百二十七年十月二十日但シ本書第二百四十二項ニ就テ是レカ特例トナル可キ千八百五十八年四月十三日ノ法律第六條ニ定ムル場合ヲ參看ス可シ又宰相ハ法律ヲ保護スルカ爲メニ破毀上告ニ均シキ訴訟ヲ起スヲ得本書第二百千八百五十一條

千八百五十一年ニ於テ參議院ノ起草スル參事院ニ關スル法案中ニ敬慎ノ訴并ニ破毀上告ニ係ル條規ヲ擧ケサルヲ以テ之レヲ推セハ其此兩訴訟手續ヲ許サ、ルヲ認許セサルヲ知ル可シ

控訴期限滿盡スルニヨリテ終審判決ト同シク控訴ス可カラサル者トナリタル始審判決ニ對シテ敬慎ノ訴ヘチナスヲ得可キヤ否ヤノ問題ニ關シ破毀法院ハ千八百二十七年六月二十一日ノ裁決書ニヨリ之レヲ爲スヲ得ストセリ蓋シ之レヲ爲スヲ得ルトスル時ハ所謂ル控訴ス可カラサル裁判ノ効力ナル者ヲ害スルニ至ルニ因ル

第四百七十七百二千第

行政官ハ其權限内ニ於テ全權ヲ有スルコト司法官ノ其權限内ニ於テスル者ト同シキカ故ニ參事院ノ判決ハ他ノ力ヲ借リスシテ直ニ執行スルノ力アルコト司法裁判所ヨリ發出スル裁判宣告書ニ異ナラス行政官ヨリ發出スル行政訴件ニ係ル判決書ヲ執行スルニハ司法裁判所ヨリ與ヘタル命令書アルヲ必要トスルハ行政官獨立ノ主意ニ背ク可シ故ニ行政官吏ハ民事裁判所議長ニ對シテ判決執行書ヲ請フヲ要セサルコト私判人ト異ナラス

第五百七十七百二千第

法律全書第四卷第七千八百九十九項ニ掲録セルノ故ヲ以テ詔書ト均シク法律ノ力ヲ有スル所ノ共和曆第十二年暖月十六日ノ參議院意見書ニ於テ左ノ如ク決定セシハ亦前項ノ主意ニ基ケリ曰ク行政官ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ法律上處斷ノ權ヲ與ヘラレタル行政官ハ眞ノ裁判役ナリ故ニ其發出スル文書ハ普通裁判所ヨリ下セル判決書ト同

一ノ効驗ヲ生シ且ツ同様ニ執行スルヲ得可シト

是レニ因テ之レヲ見レハ左ノ如ク判斷ヲ下サ、ル可カラズ

第一 參事院ノ判決書ハ特ニ普通裁判所ノ檢署若クハ命令書ヲ要

セスシテ直ニ執行スルヲ得共和曆第十年花月二十九日法律第四條ヲ看ヨ

第二 參事院ノ判決書ハ普通裁判所ノ裁判宣告書ト同一ノ方法ニ

從ヒ且ツ同一ノ約款ニ因リ書入質ノ効ヲ生ス前ニ掲ケタル參議院意見書及ヒ千八百十一年十月二十九日并千八百二十二年三月二十四日同院ノ意見書共和曆第十年花月二十九日ノ法律第四條ヲ看ヨ

第三 參事院ノ判決書ハ普通裁判所ノ裁判宣告書ト同一ノ方法ニ

因テ要償拘留ノ効ヲ生ス故ニ民法第二千六十七條ノ明文アルニ係ハラス普通裁判所ニ依頼セスシテ直ニ敗訟者ニ向ヒ其所有ニ

屬スル動不動産ニ對シ執行スル所アルヲ得且ツ法律ニ因リテ許認スル場合ニ於テハ要償ノ拘留ヲ命シテ之レヲ執行スルヲ得

第六千七百二十號

千八百三十二年四月十七日法律第六十八條末節及第九百五十四年十一月十七日法律第六十八條末節及第九百五十四年十一月十七日法律第六十八條末節

參事院ハ該院ヲ創立セシ所ノ共和曆第八年兩月二十八日ノ法律第二條及ヒ第四條ニ因リ固有ノ權アリトス蓋シ該院ハ此法律ニ因リ昔ノ州中央行政會ニ屬セシ行政訴訟判決ノ權ヲ相續シ州長ハ該行政會并ニ之レニ屬スル委員ニ與ヘタル普通行政上ノ職務ヲ相續セリ是ヲ以テ州長ノ職ト參事院ノ職トハ全ク相別異スルカ故ニ參事院ノ判決書ヲ執行スルカ爲メニ州長ノ檢署若クハ命令等ヲ請フヲ要セス
本書第八項ヲ看ヨ

第七千七百二十號

參事院ノ判決書ノ原本ハ印稅ヲ課セス又記錄稅ハ其原本副本ヲ論セス皆ナ之レヲ課セス然レモ訴者ニ交附ス可キ副本ハ必ス印稅紙ヲ用ユ可シ但シ極貧ノ者ニ交附スル者ハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ其埋

第八千七百二十號

由チ本文ニ附記ス可シ千八百十八年五月十日法律第八十條
參事院ノ判決書ヲ執行スルカ爲メニハ訴訟法第四百十六條第五百四十五條ニ因リ普通裁判所ノ裁判宣告書執行ノ爲メニ定メタル執行書式ヲ具載スルヲ要セス加之千八百二十六年二月五日ノ參議院內務部及ヒ行政訴訟部ノ意見書ニ云ヘルアリ曰ク參事院ノ判決書ニ定名ヲ附シ若クハ普通裁判所ノ裁判宣告書ニ關シ定メタル者ニ均シキ命令書ヲ之レニ附添スル時ハ則チ左ノ不便ヲ生ス即チ普通裁判所ノ裁判宣告書ニ均シキ書式ヲ以テ參事院判決書ニ被ラシムル時ハ該院ヲシテ普通裁判所ノ一種ト看做シ遂ニ該院設立ノ主意ヲ誤ルニ至ル可キ是レナリト夫レ訴訟法第四百十六條ニ就テ考案スルニ普通裁判所ノ裁判宣告書ノ副本ハ國憲第四十八條ニ依準シ國王ノ名ヲ以テ定ムル者ナリ然レモ參事院議官ハ該第四十八條ニ因リ國王ノ代理者トシテ

其權ヲ有スル者ニ非スシテ同國憲第十二條及ヒ第十三條ニ因リテ其職ニ服セリ此第十二第十三ノ兩條ハ國王ニ與フルニ行政ノ權ヲ以テスル者ニシテ所謂ル普通行政官ト行政訴件ノ裁判官タル行政官トハ此國王ニ屬スル行政權ノ分派タルニ過キササルナリ今若シ參事院ニ於テ國憲第四十八條ニ因リ其職ヲ行フアラハ是レ之レヲシテ行政官ノ部内ヲ離レテ司法官ノ部内ニ入ラシムル者ナリ財政ニ併スル千八百六十二年五月三十一日ノ詔書第四百三十四條ハ參事院判決書ノ副本ニ其執行書式ヲ具載スルコトヲ命シタリ然レモ此條規ハ財務ニ關スル訴件ノ參事院判決ノミニ適施シ之レヲ他ノ判決書ニ移シ用ユルヲ得サル可シ本書第八百八十七項ヲ看ヨ

何レノ法令モ參事院判決書ヲ常備ノ簿冊ニ登記セサルニヨリテ之レヲ無効トスルノ條款ヲ掲ケス由テ偶其登簿ヲ遺却スルアルモ爲メニ

該判決書ヲシテ無効ニ屬セシム可ガラス千八百五十一年五月十日ニコライ件判決

論者云ヘルアリ曰ク參事院ハ其判決執行ニ關スル判決ヲ下スヲ得ス是レ參議院ノ公判ニ因リテ定ムル所ノ大旨ナリト千八百三十八年八月二十二日ランベリエ

決ヲ看ヨ該論者ハ其理由ヲ述フルニ當リテ參事院ヲ以テ臨時裁判所トスレモ余ハ之レニ服スル能ハス若シ果シテ此說ノ如クナラハ普通裁判所ニ與ヘタル職務ヨリ分派スル司法上ノ職務ヲ以テ參事院ニ屬セリトセサル可カラス然レモ所謂ル參事院ナル者ハ司法官ノ範圍外ニ在ル所ノ行政官ナリ故ニ該院ハ司法裁判所ト同等ノ權ヲ執行ス決シテ之レニ附屬スル者ニ非サルナリ時トシテ參事院ノ判決執行ニ就テ生スル爭訟判決ノ權ヲ該院ニ拒ムノ規則アルニ因リテ常ニ此判決權ヲ以テ普通裁判所ニ屬スル者ト判定ス可カラス夫レ敗訟者ノ動産若クハ不動産ヲ差シ押ヘ又ハ之レニ向テ要償ノ拘留ヲ命シ以テ判決

ヲ執行セントスル時ハ爲メニ生スル所ノ争訟ヲ以テ普通裁判所ノ判決權ニ屬セサル可カラス何トナレハ此場合ニ於テハ該裁判所ノ本分タル訴訟手續及ヒ普通法ヲ適施ス可ケレハナリ且ツ何人モ法定ノ程式ヲ遵守セシヤ否ヤヲ検査スルノ權ヲ特有スル相當裁判官ニ訴フルノ權ヲ剥レテ其財産ヲ拘收セラレ及ヒ其身ヲ楚閉セラル可カラス本

第二百六十八項ヲ看ヨ

然レモ普通行政官ニ於テ調査ス可キ事項ニ就テ參事院ノ判決ヲ執行スルニ臨ミ争訟ヲ生シタル時ハ其判決權ヲ以テ特ニ該行政官ニ屬ス參事院ノ判決執行上此場合ニ掛ル者殊ニ多シ今之レヲ例セハ直税ノ賦課額ニ關シ納税者ヨリ起セル訴求、公ケノ工事請負契約書ノ意義及ヒ執行ニ關スル争訟、行政官ノ所爲ニ因リテ生シタル損害要償ノ訴訟、其他之レニ類似スルノ場合ニ於テハ參事院判決書執行ノ性質ヲ變シテ

行政務上ノ者ト爲スカ故ニ普通裁判所ニ於テ因テ生スル争訟ヲ判決スルノ權アラサル可シ本書第二百六十九項ヲ看ヨ故ニ其判決權ヲ以テ時トシテハ參事院ニ屬シ時トシテハ州長ニ屬ス請フ之レヲ證セシ參事院ヨリ命シタル鑑定ニ關シタル故障申述ヲ判決スルノ權ハ參事院ニ在リテ州長ニ屬セス何トナレハ本案ニ關スル豫審判決ヲ爲スニ當リテハ參事院ノ權依然存シテ變セサレハナリ千八百四十七年三月三十一日バンソン件州長ハ控訴ス可カラサル効力ヲ有スル判決ニ因リ非拒セラレタル租税事件ニ關シ該訴者ノ擔當ス可キ検査費及ヒ鑑定人ニ關スル費用ヲ規定セサル可カラス何トナレハ共和曆第八年花月二十四日ノ布令ニ因リ此權ヲ以テ州長ニ屬スレハナリ前ニ註記セルバンソン件判決ヲ看ヨ參事院ニ於テ損害要償ノ訴ヲ判決スルノ權アルヤ否ヤノ問題ヲ決セント欲セハ先ツ其訴訟ノ行政事件ニ屬スルヤ否ラサルヤヲ判別セサ

ル可カラス其行政訴件ニ係ル場合ニ於テハ其要償ノ訴ヲ以テ參事院
 ノ管轄ニ屬ス可シ之レニ反スル場合ニ於テハ之レヲ以テ普通裁判所
 ニ訴フ可キナリ本條第三百六十八項ヲ看ヨ
 參事院ハ其審理スル訴訟ニ關スル損害ヲ後來ニ消止セシカ爲メニス
 ル工事執行ヲ命スルヲ得ルヤ蓋シ人民相互ノ間ニ起レル爭訟ニ關シ
 普通裁判所ニ此權アルヲ疑フ容レス凡ソ損害ヲ消止セシメ及ヒ其再
 ヒ起ルヲ防クノ最良手段ハ其損害ノ原因ヲ絶テ若クハ之レヲ豫防ス
 ルニ在リ隨テ損害ヲ後來ニ防止スルノ工事ヲ命セサル可カラス然レ
 平常ニ行政官ニ關係アル所ノ爭訟ヲ判決スルノ職ニ任スル參事院ハ
 普通裁判所ト同等ノ權ヲ有セス何トナレハ參事院ヲ以テ普通裁判所
 ト同等ノ權ヲ有シテ是等工事ヲ命スルノ權アリトスル時ハ或ハ其普
 通行政官ノ權ヲ侵スノ懼アレハナリ是故ニ該院ハ政府若クハ受許與

者タル會社ニ對スル損害要償ノ訴ヲ判決スルニ臨ミ一邑ノ爲メニ有
 益ナリト思惟シ河中ニ某ノ工事ノ執行ヲ命スルヲ得ス千八百三十七年
 五月二十一日又洪水豫防ノ工事ヲ命スルノ權ナ
 リ北國鐵道會社判決ヲ看ヨ又洪水豫防ノ工事ヲ命スルノ權ナ
 シ千八百四十五年一月十日又洪水豫防ノ工事ヲ命スルノ權ナ
 シ千八百五十二年五月二十八日
 間鐵道件判決ヲ看ヨ同月二十一日又洪水豫防ノ工事ヲ命スルノ權ハ特ニ普通
 行政官ニ屬ス同月二十一日又洪水豫防ノ工事ヲ命スルノ權ハ特ニ普通

參事院ハ大路ニ關スル警察法ニ反ク者ニ罰金ヲ科シ併セテ定期内ニ
 於テ法令ニ反キテ設置セル坑穴ヲ填メ積堆物ヲ取除ケシムルヲ得反
 則者ニ於テ右ノ定期内ニ於テ其命セラレタル所ノ者ヲ履行セサル場
 合ニ於テハ官ヨリ之レヲ廢止シ其費用ヲ本人ヨリ徴ス可シ千八百四
 年七月十五日然レモ請負契約書ノ條款ニ背キ鐵道發企人ノ行フタル

工事ニ關シテハ法律上之レヲ處罰スルノ明文ヲ掲ケス唯參事院ニ於
 テ之レニ罰金ヲ科スルノ權アリトスルノ三同及ヒ第十四條損害ヲ廢
 止スルニ必要トスルノ處分ヲ命スルノ權ニ至リテハ之レヲ普通行政
 官ニ屬セリトスル者ノ如シ同第十五條蓋シ第一ノ場合ニ於テハ法律ノ
 明文ニ從ヒ公領ニ害アリトスル工事ヲ消止セシムルニ過キス故ニ參
 事院ニ與フルニ此權ヲ以テスルモ爲メニ普通行政官ノ行爲ヲ妨害ス
 ルノ懼ナシ然レモ第二ノ場合ニ於テハ其關係スル所頗ル大ナリ隨テ
 命令ス可キ處分モ亦頗ル緊要ナリトス故ニ其權ヲ以テ參事院ニ屬セ
 スニテ普通行政官ニ與ヘタリ
 然レモ參事院ハ鐵道發企人ニ損害金ノ辨償ヲ命スルニ際シテ左ノ如
 シ附言スルヲ得曰ク本人ニ於テ損害ヲ回復スルカ爲メニ某々ノ工事
 ヲ執行スルヲ欲セサレハ云云ト千八百五十九年六月三十日府
鐵道件千八百六十年二月十六日巴里

府
鐵道
件
判
決

鐵路ヲ平準スルノ工事ヲ行フニヨリテ某ノ所有地ニ起セル損害ヲ
 回復スルカ爲メニ某ノ工事ヲ執行ス可シト邑ヨリ具申スル時ニ當リ參
 事院ハ此工事執行ニ因リテ邑ヨリ該所有地主ニ充分ノ償ヲ與ヘタリ
 ト判決スルモ弄權トス可カラス千八百五十七年二月五日府
鐵道件判
 決
 參事院ニ對シ各箇人若クハ會社ノ間ニ起レル訴訟入費ハ訴訟法第百
 三十條ニ依準シ之レヲ敗訟者ニ課ス千八百六十六年七月二十二日參事院
 ハ兩造ノ間ニ於テ互ニ勝敗スル事件アル場合ニ於テ訴訟法第百三十
 一條ニ依準シ訴訟入費互消ノ法ヲ行フヲ得殊ニ鑑定入費ニ就テ之レ
 ヲ適施ス千八百五十八年六月二日
十八日府
鐵道件判
 決
 人民ヨリ請求スル所ノ要償金額過當ニシテ行政官及ヒ請負人ノ出金
 セントスル者不充分ナルニヨリテ鑑定ヲ命スルヲ必要トスル時ハ兩

造チシテ互ニ其費用ヲ負擔セシム
千八百五十八年二月二日邑ヨリ工事
 ニ因リテ生シタル損害ヲ蒙リタル者ニ與フ可キ要償ノ額不充分ナル
 時ハ爲メニ行フ所ノ鑑定入費ノ全額ヲ該邑ニ負ハシム可シ
千八百六十三年七月七日三
十六日アルパ公ケノ工事受許與者ニ於テ其被ラセタル損害ヲ償ハ
 シヨシ邑件判決
 サル時ハ之レヲシテ鑑定入費ノ全額ヲ擔當セシム可シ
千八百六十三年七月七日三
 ルレアン鐵 行政官自カラ行政訴件ニ關係スル場合ニ於テ之レニ訴訟
 道件判決 入費ヲ負ハシメ若クハ之レヲ其相手方ニ負ハシムルヲ許セル法令ナ
 キカ故ニ此時ニ當リ敗訟者ニ訴訟入費ヲ擔當セシムルノ通則ヲ用ユ
 可カラス
千八百五十五年四月十二日サラサン件千八百五十九年
八月十六日フルース件及ヒ本書第三百六十二項ヲ看ヨ
 公ケノ工事ニ因リテ起セル損害要償ノ訴訟ヲ受理スル參事院ハ償金
 ノ名義ヲ以テ此損害ヲ算定スルカ爲メニ命シタル鑑定入費ノ全額ヲ
 拂フヲ行政官ニ命スルヲ得
千八百四十八年一月三日ブーチリエ
千八百五十年一月五日ニグーリエ

同年四月十三日 殊ニ行政官ノ行爲ニ因リテ鑑定ヲ必要トナシタル時
 チリ件判決
 ハ該院ニ於テ右ノ如ク命令セサル可カラス
千八百五十三年七月二十
 一日テアラ件判決及ヒ本
 書第七百六十
六項ヲ看ヨ
 參議院判決モ亦其義ヲ同シセリ故ニ其理由書ニ曰ク先キニ施行セ
 ル鑑定ハ行政官ニ於テ、ド、シヤテリニス氏ノ請求ヲ聞届ケサルニヨリテ
 必要トナリタル者ナリ是故ニ該行政官ヲシテ償金ト共ニ鑑定入費ノ
 全額ヲ負擔スルヲ命シタルコト、ドル州參事院ノ判決ハ正當ノ者
 ニシテ決シテ定法ヲ侵セル者ニ非サルナリト
千八百五十四年六月二
 十日アラブラム件千八
百五十六年六月六日メチエー件同年十二月十一日
レクラン件千
八百六十一年三月二十一日工部宰相局件判決及ヒ本書第三百六十二
 項ヲ
 參事院ノ判決書ハ之レヲ得タル者ノ爲メニ普通裁判所ノ裁判宣告書
 ト異ナラサルカ故ニ勝訟者ヨリ其副本ヲ請求スルヲ拒ムノ權ヲ以テ

三十八百二千第

州長ニ屬スルヲ得ズ
一千八百四十九年八月十日
參事院ハ普通裁判所ノ本職ヲ行フ者ナリ故ニ左ノ事項ヲ判決スルヲ得ス

第一 其所管州外ニ於テ行フタル大路犯罪
一千八百二十三年一月二十
二月二十一日ヨリ
一千八百五十一年七月五日ヨリ
同
年
十
月
二
日
ヨリ
同
年
十
月
二
日
ヨリ

第二 他州ニ於テ施行スル國有財産販賣契約書ノ解釋
一千八百二十
五年十二月
二十一日ヨリ

四十八百二千第

然レモ法律ニ明文ヲ掲ケテ參事院ノ判決權ヲ數州ニ擴張シタル時ハ
前ニ定ムルノ限リニ在ラス是故ニ鐵道布設ヲ許與セル法律ニ附添ス
ル契約書中ニ於テ此ノ如キ條規ヲ見ルコト少ナカラス
何レノ法令モ未タ嘗テ政府ノ負擔スル金額ヲ辨償スルノ期限ヲ定ム
ルノ權ヲ以テ參事院ニ與フルアラズ故ニ政府ハ財政法ニ依準シテ之

五十八百二千第

レヲ辨償ス凡ソ參事院ニ於テ損害要償金ノ名義ヲ以テ政府ヨリ辨償
ス可キ者ノ期限ヲ定ムル時ハ弄權ナリトス
一千八百四十五年八月三
十日ヨリ
同
年
十
月
二
日
ヨリ

六十八百二千第

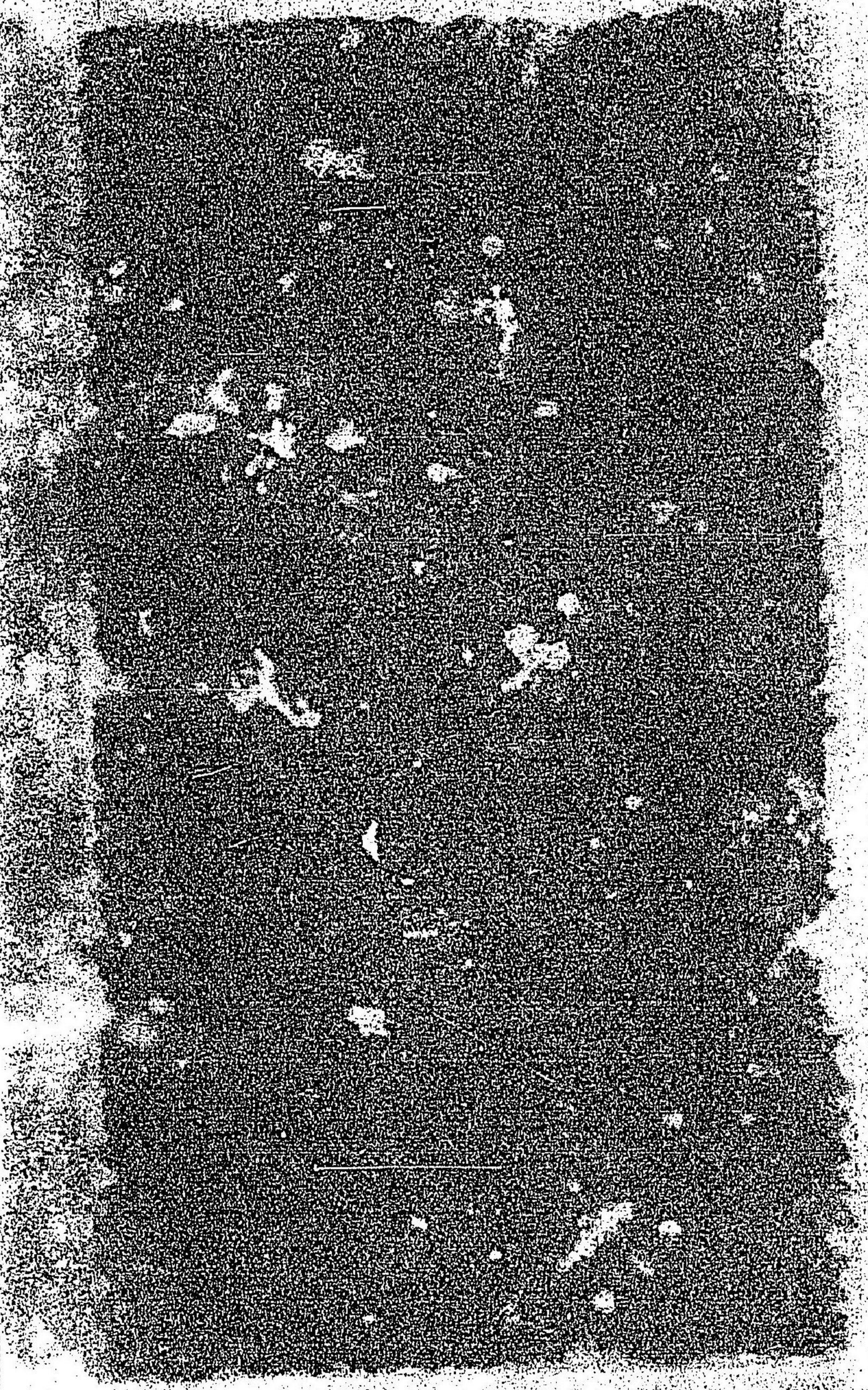
參事院ハ此表ニ依準シテ其指定スル鑑定人ニ與フ可キ謝金及ビ諸費
用ヲ規定スルヲ要セス
一千八百五十五年十一月二十
九日ヨリ
同
年
十
月
二
日
ヨリ

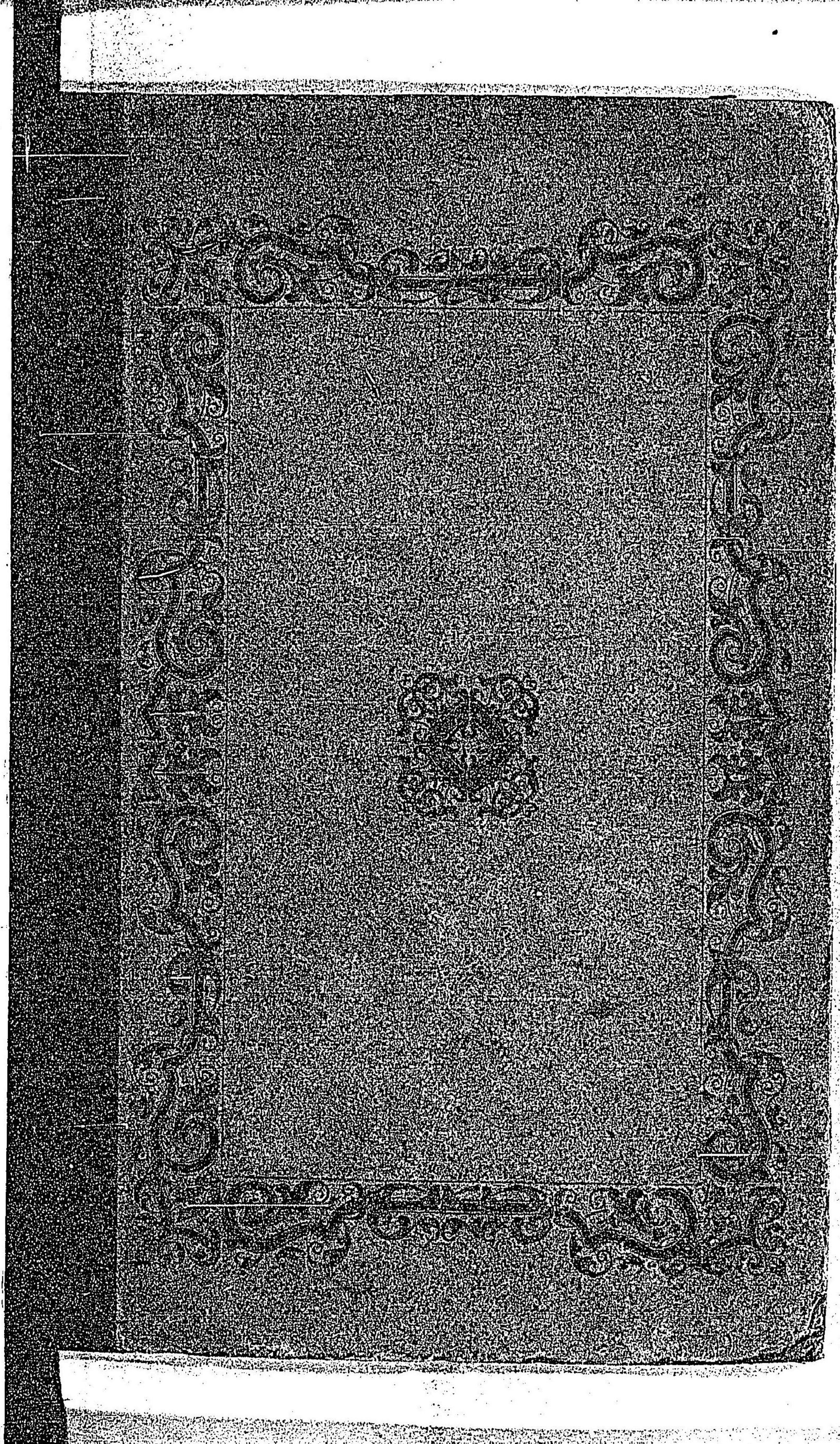
ヨリ論ヲ待タサルナリ
十二書項第四百ヨ

ルセ氏ニ
行政訴訟論第三卷終

明治十八年五月三十日版權屆

14
50





14.7

50

司馬遼太郎著
外國行政訴訟論
第一卷

明治十九年一月刊行

036506-003-7

14.7-50

外國行政訴訟論

セリニー／著

M18-19

BBR-0237

